

上町しぜんの園

園だより | 11月号 2022.11.2

S うんどうかい
(2022.10.13 I記)



KくんちのSくんが、金曜日までで退園になる。
運動会には参加できないんだ。だから、明日、Sくんのための運動会しようと思うんだ。と伝えた。
だれかが、「S うんどうかい」だねといった。
あかとあおチームに分かれて、「つなひき」と「リレー」をした。
Sくんのいたあおチームはどっちもまげちゃったけど、
あおチームのアンカーはもちろんSくん。
大きい子みんなで「Sくーん！がんばれー！Sくーん！がんばれー！」と
一人トラックを走るSくんを応援した。「Sうんどうかい」だいせいこうだった。
Sくん、いってらっしゃい！また、遊びに来てね！！

11月の予定

子どもの声^が聞こえてきたら

青山 誠

子どもの成長を日々伝えることと、上町に「行事」が少ない理由

上町しぜんの国では開園以来、職員で子どもたちの「エピソード記述」に取り組んでいます。玄関にあるドキュメンテーションとは別に、たまに連絡帳に挟んでお渡ししているものです。

エピソード記述とは、子どもとの日々を、単に出来事の羅列ではなくて、記述する人の気持ちや思考も含めて書いていくものです。開園以来4年目で、その数は2,885個（2022年11月2日現在）にものぼります。年間およそ825個、およそ一日に平均2.8個くらい書いている計算になります。なぜこれほどまでに私たちが「書く」のか。それにはいくつかの理由があります。

上町には「行事」はほぼなく、運動会とスモールポンドフェスティバルというお祭りだけです。おとなは「なにかができた」（たとえば逆上がりができた、劇ができた、など）ことで、子どもの成長を実感するのがわかりやすい。そのため行事が、子どもになにかを「やらせて」、その成果を園と保護者とで確認する機会になり、しばしば保護者からは見えないところで、子どもたちが無理を強いられたり、選別されたりすることも少なくありません。

私たちは「なにかができた」ことだけで子どもの成長をわかちあうよりも、日々のなかで子どもが見せるふとした表情、つぶやき、関わりのなかに、その子がその子らしく「今を生きている」、その時間をわかちあいたいのです。そのために私たちは、一見なにげなく思える瞬間

をエピソード記述として書きとどめています。

保護者とのわかちあいという理由の他に、職員側にも書く理由があるのですが、それはまた次回。ふとした瞬間を書きとめておくことの大切さが感じられる実例を見てみましょう。

あつというまじゃないよ

————— 2022.10.21 E記

Jが歩いた。大人の感覚だと、ついこの前ママのお腹にいたのに！ついこの前はちっちゃかったのに！というようにあつというまに大きくなる。

14時半すぎ。起きている子たちで恐竜のつづきをしていると、Jがさっくんちに入ってきた。ハイハイで入ってきて、近くのラブリコにつかまり立ちする。そしてそこから柵に向かって歩いた。

「Jが歩いた！」と私。

「そうだよ、あるくんだよ」とH。

「あつというまに歩くんだね～」と私が言うと、

「あつというまじゃないよ」とKちゃん。

「そっか、あつというまじゃないのか」

「うん、だってさ、さいしょはハイハイでさ、そこからたつてさ、それでだんだん、だんだんあるいたんだよ。あつというまじゃない」

「うんうん、そうだよね」

ハッとさせられる。つい、大人の感覚であつという間だと口走るが、子どもの感覚というか、Kちゃん感覚ではあつという間ではないのだ。

いつから成長をあつという間だと感じるようになるのだろうか？子どもとすると、今を生きていて、一日、今この時、一瞬がかけがえのないものだ痛感する。今日もまた、あつという間ではないみんなの成長をじっくりと、一緒に過ごしていきたいと思う。

こうした瞬間を書いていくことで、子どもという一秒一秒の大切さや、あたたかさを分かち合いたいです。書き留めることそのものが、日々子どもたちといることの価値を私たちにあらためて伝えてくれます。もうひとつ、桜庭さんのエピソードから。

おすもうさん ————— 2022.10.26 S記

出勤してすぐ、小さい子と一緒に園庭に出る。真ん中っ子はお散歩に行くみたい。

小さい子連れて園庭の階段の上から散歩チームを見送る。「いってらっしゃーい」みんなで声をかけていると、「トン」と音とともに、Yの片方の靴が下に落っこちる。

「うえー——ん」と、落ちた靴を指差しながら泣くY。

「あらら。下に落ちちゃったね～」と私。

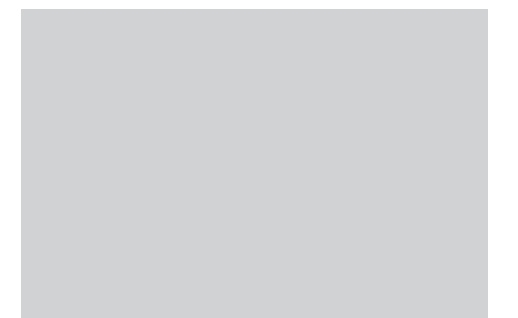
すると、「Mちゃん、おすもうさんだからだいじょうぶよー！」とMちゃん。そう言って階段をタン、タン、と降りていく。そして下まで降りると、「ね？あつたよー！だいじょうぶよー！」と、靴を拾ってYに見せるMちゃん。

それをみて

「Y、Mちゃんが靴拾ってくれたね」と、私。「ひひひ」と、笑うY。

「おすもうさんだからだいじょうぶよ」という言葉。Mちゃんの中で「おすもうさん」というのは、私たちの想像している、いわゆるお相撲さんではない。「つよい」「できる」とかの言葉よりも、もっともっと大きく？表現するための言葉。

最近、色々な言葉や意味（表現）を覚えているMちゃん。そんな中で、知っている言葉をたくさん考えて繋げて。きっとこの「おすもうさん」という表現に繋がったのかなあ、と。身近な言葉で、こんなにも表現できる。そんなMちゃんに引き込まれた場面だった。



私のなかでは、Mちゃんはいつこの前まで赤ちゃんでした。それがもうこんなふうに、「だいじょうぶよー！」と言う側にまわっていることに驚くとともに、これまたそこに「あつというまじゃない」日々があったことの愛おしさに気づくのです。



秋の味覚

食欲の秋がやってきました。

秋の旬と言えば さんま、鮭、さつまいも、れんこん、きのこ、りんご、柿、ぶどう…
などたくさんものがありますね。

今回はその中でも「きのこ」に注目してみようと思います。

- キッチン 峯元



キッチン旬だより

【きのこ】

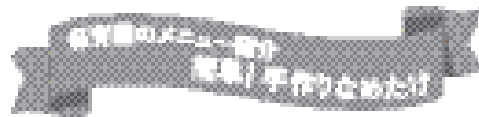
年中お店に並んでいますが、秋が旬のきのこ。

しいたけ、えのき、まいたけ、しめじ、なめこ…

さまざまな種類のきのこがありますが、どのきのこにもビタミンやカリウム、食物繊維などの成分が含まれています。

きのこは、干すことによってうま味も栄養も保存性もアップします。

2～3時間干すだけでも効果があるので、調理の前に少し干すのもおすすめです。



【材料】

- ・えのきたけ 1パック
- ・しょうゆ 大さじ2
- ・みりん 大さじ2
- ・酢 小さじ1

【作り方】

- ①えのきは、2cmくらいの長さに切る
- ②鍋に、えのき、しょうゆ、みりんを入れて中火で加熱する。
- ③えのきがしんなりとして汁気がなくなったら、酢を入れてひと煮たちしたら完成。

※調味料の加減はお好みでしてください。



とても簡単なので、お家でも作ってみてくださいね。



保健だより

朝の気温が低かったり北風が吹いたり、寒くなってきましたね。

でも日中に太陽が顔を出すと暑いと感じたり。。。

着せるものに悩むかとは思いますが、子どもは大人よりも体温が高いということを踏まえつつ、重ね着の場合も、前開きの脱ぎ着しやすいものを着せてもらおうと思います。

乾燥もしてきたので、水分補給に気をつけながらみんなで遊んでいます。

【お知らせ】

◆『園のしおり』に「園での与薬は原則的には行いません。体調の悪い時は十分な休養と治療をお願いします。」と書かせていただいております。もし、与薬に関する事で何か相談が必要な場合は通山、野崎、石上、萩原の誰かにお声がけをお願いします。

◆最近、お熱の子が増えています。お熱が高い場合は、受診し、医師の診察を受けてください。

- 看護師 通山

◎感染症状況(10月分)：溶連菌感染症(登園許可書は特に必要ではありません) 1名、

職員 の 声

先日、5歳になった娘が突然、「おとうさんみたいなかみのけにしたい！」と言い出し、スッキリサッパリ、ツーンロックになりました。プリンセスのTシャツも好きで着るのですが、それ以外を着ていると、大体「ほく！」とか、「ほろちゃん」とか言われています。本人も私も気にしないのですが、やっぱり、髪の毛の長い、短いとか、服の色とかで男女の先入観があるのかなあと思ったりしました。(ハマジマ)

うちごと
内山

先日久しぶりにサッカーの試合を観に行きました。高校までサッカー部の息子その2と試合を観るのは大好きです。テレビの解説者よりも身近の解説者。おまけに「オフサイドって今のん??」とトボけた質問とある母に辛抱強く付き合ってくれます。次は11月のAS10-2 VS 横浜F.マリス戦! 楽しみです♡

はじめまして。

10月から非常勤でお世話になって
いる小原未沙萌(おはらみさも)です。みーやん
と呼んでもらえたら嬉しいです。小学2年生の時に
あだ名が流行り、仲良しだったあやなちゃん考えた
思い出溢れるあだ名です。当時とても嬉しくて
「今日から未のことはみーせんって呼んで!」と家族
に伝えたことを覚えています。せむ気軽に呼ん
でください。余談ですが、当時未は写真を
撮る際必ず「ちよとまて!」とくる、と振り
向いてバックスタイルでカシャとして
もらっていました。みなさんも
そんな時期ありましたか?

山原

この夏、人間国宝の
平良敏子さんの芭蕉布展が東京
であり、見てきました。
私がお会いしたかった方の人であ
り、その夢はかないませんでした。
芭蕉布の糸が絡み合っているような風合い
はとても美しく、感銘を受けました。
いつか、この芭蕉布会館にも行って
みたいなあと思っています。
平良★